「アジアに架ける橋」著者・新石正弘氏を偲ぶ ブリッジ・エーシア・ジャパン理事長 根本悦子氏

私費外国人留学生のための

大学入学案内

この1冊にお任せください!留学生の大学選びは



2010年度版発売開始!

編集・発行: (財) アジア学生文化協会 発売: 凡人社 ¥ 2,000 +税

お問合せ: 2 03-3946-7565 E-mail hoshi@abk.or.jp

アジアの

2009年11月号 第479号

2 巻頭

インタビュー

「アジアに架ける橋」著者・新石正弘氏を偲ぶ ブリッジ・エーシア・ジャパン理事長 根本悦子氏

10 先輩こんにちは!

ブティ・コハルさん ~インドネシア

14 わたしたち・・だから日本に留学しました④

陳 俊銘さん ~台湾

陳さんお勧め! 東京から手軽に行ける観光地ベスト5 16

18 連載紀行文

写真家・鎌澤久也のメコンのほとりで・・(第16回) 「シャングリラ」

- 19 知友会通信 奨学金・イベント情報
- 20 **MEMBERS** ご入会・ご寄付のご報告(2009年9月)

<表紙作品>

カメラにおさまろうと、押 し合いへし合いする子ども たち (エジプト・ダハラオ アシスにて)

★表紙作者 常見藤代

(Mr. Fujiyo Tsunemi)

群馬県生まれ。大学卒業後、 保険会社に3年間勤務の後、 写真のテーマを探してアジ ア・アフリカを放浪。その 過程でイスラム文化に魅せ られ、エジプトでアラビア 語を学ぶ。

以後、ライフワークとして、 エジプトを中心とするアラ ブ・イスラム圏を取り続け ている。

<ブログ>

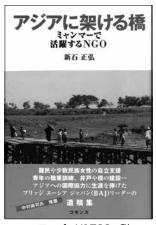
http://plaza.rakuten.co.jp/ fujiyo777/



在りし日の新石氏

ミャンマー、ベトナムで活動する NGO「ブリッジ・エーシア・ジャパン」の設立者・リーダーであった新石正弘氏が 2009 年 1月 29 日、癌のために永眠した。新石氏はアジア学生文化協会(ABK)の新星学寮で大学時代を過ごし、ベトナム人留学生の支援運動などに関わったことをきっかけに、1993 年、NGO「日本インドシナ市民協力センター」を設立。1994 年には名称を「ブリッジ・エーシ・アジャパン (BAJ)」に改称した。BAJ はベトナム、ミャンマー、スリランカで国際援助活動を行っている。

その新石氏の遺稿集となる「アジアに架ける橋~ミャンマーで活躍する」がコモンズから発売されている。本は新石氏が病



コモンズ ¥1700+税

におかされた後に執筆を開始したもので、BAJの、主にミャンマーでの活動実績を中心に日本の ODA にまつわる様々な矛盾と憤り、NGO の意義と目指すべき道などが、死を目前にしたからこその偽りなき言葉で綴られている。残念なことに大学時代から NGO 設立にいたるまでを書き記す予定だったエピローグは未完で終わっているが、NGO および政府関係者はもちろん、ODA 予算の出資者である全ての日本国民に読んでもらいたい 1 冊となっている。

今回は、BAJ 理事長として、そして連れ合いとして新石氏を公私共に支えた長年のパートナーである根本悦子氏に、新石氏の人となりや、現在の BAJ の活動についてお話をうかがった。

新石正弘という人

―― 本には新石氏の国際援助に対する思いが、様々な角度からわかりやすく、しかし 熱く綴られています。

BAI は国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) や国際協力機構(IICA)、また外務省や民間企 業、過去には国際協力銀行(JBIC)とも仕事 をしておりますが、これだけ様々な機関との 事業経験をもっている NGO というのは、あま りないのではないでしょうか。新石はその中 心となって事業を進めてきましたので、さま ざまなドナー(支援者)を比較すると「これ はおかしいのではないかしとか、「これは仕方 がないのかなしということを一番よくわかっ ていたと思います。また、若い人たちで国際 協力の仕事を希望する人たちが増えています が、受け皿としての仕事の場は非常に限られ ています。NGO の活動を強化していくことや、 その人材の育成の必要性、また日本社会での 有用性など、そのあたりを伝えておきたいと 考えたのではないでしょうか。

NGO の代表としては、資金をはじめ としたスキームを提供する側に対して、言い にくいことも多々あったのではないでしょう か。

新石は正義感が強い人だったので、いろいろな機会を捉えておかしいと感じたことは、おかしいと言ってきたと思います。亡くなる数週間前も、入院していた病院に対して、管理上の疑問があるということで申し入れをして、婦長さんなど病院スタッフに意見を申し上げました。病院側は訴訟でも起こされるのではと戦々恐々だったと思います(笑)。ただ新石は、病院の管理体制に対して、患者に向



根本悦子氏

き合っていないということを、患者として提言したかっただけなんです。既に体も弱っている時だったので私もびっくりしたのですが、おかしいことはおかしいと誰かが言わないといけない、そういう思いだったと思います。

ーー 本に掲載のお写真からは、とても穏 やかそうな方に見えます。

本当に穏やかな人で、あまり語気を強めて 怒るということがない人でした。ただ現場でも のすごく怒っているのを2回見たことがありま す。それは、ドナーの方を現地に案内した時 に、いい加減な対応をしたスタッフに対してで した。もうひとつは、寄付をしてくれた方に対 しても考え方がおかしいと、ものすごく怒って いたことがありましたが、あとで反省もしてい ました。おかしいと思ったことに対しては、相 手が誰であれ、それは違うと言う、そういう人 だったと思います。



一般的なマウンドーの橋



完成した新しい橋

「どんなに高い立場から偉そうなことを言っていても、私生活がきちんとしていなかったら、私はその人の言うことは信用しない」ということまで言っていましたので、厳しく自分を律していたと思います。そういう意味では生きづらかったのではないでしょうか。

----- BAJ の事業はご一緒に考え、決定・実行されてきたのでしょうか。

新石が始めたことですし、ほとんど自分で考え、どんどん進めていくというのが基本でした。ただ本当に困った時に、私もいっしょに考えました。24時間いっしょに仕事を進めてきましたので、新石のことは一番よく理解していたと思います。

新石の病気がわかってからは、私も活動現場に行くようになりましたが、新石の側にもいてあげたいと思っていました。実は亡くなる1週間ほど前、私はミャンマーに行っていたんですね。それは彼が亡くなってからのBAJの体制をどうするかということを、ミャンマーのスタッフたちと考えるという会議だったのですが、私は新石の命はもう長くはないと思い、会議を延期しようと思っていました。ところが新石の方から、ぜひ行ってく

れと、ぜひ行ってみんなの存念なり何なりを 聞いてきて欲しいと言われて、行くことにし ました。非常に不安だったのですが、1週間 ほど行って、帰国した足で病院に行ったら、 新石は本当にホッとしたような顔をしていま した。次の日、いっさいの治療を止めるから ね、と自分で決めたんです。それまで気が張っ ていたのかもしれませんが、その1週間後に 亡くなりました。

自分がいなくなった後、組織をどうしていくかということは、家族のことも含めて心残りだったのではないかと思います。ただ、昔からの友人の方々は、非常によくやった、やるべきことはやったと評価してくれているので、私はその言葉を素直に受け止めています。

ミャンマーでの NGO 活動

現在はベトナム、ミャンマーで活動を されていますが、ミャンマーのウェイトが大 きいということですね。

人材的にも金銭的にも非常に大きいですね。 アウンサン・スーチー氏が拘束されて以降、 日本政府はミャンマーで大規模な政府開発援 助(ODA)を実施することはできませんが、 NGOを通じてならばできることがあるわけ です。そうした状況の中で、外務省や JICA、 UNHCR も含めて、BAJ の仕事をとても評価 していただいています。ミャンマーの活動に 関しては外務大臣表彰もいただきました。

— 本にも詳しく書かれていますが、もともとミャンマーとの関係が始まったのは UNHCR のパートナーとして、ということでした。

BAJの一番大きな活動地域である北ラカイ ン州 (NRS) のマウンドー (Maungdaw) と いう地域はバングラデシュとの国境にあり、 現在、BAI のローカルスタッフが 100 人以上 います。マウンドーはムスリム系住民が非常 に多い地域なので、ミャンマー政府はその地 域の開発に熱心ではありませんが、今から14、 15年前、20万人を超えるムスリム系の住民が バングラデシュに難民として流出し、それを 帰還させるために国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が入ることになりました。UNHCR は NGO とパートナーを組んでプロジェクトを 進めるのですが、ミャンマー政府に対してど この国の NGO なら受け入れ可能かということ を尋ねたら、日本がいいという答えが返って きたそうです。

当初この話は日本国際ボランティアセンター(JVC)にいったのですが、JVCでは様々な理由で受けられないということになり、私たちの団体に話が回ってきました。私たちには現場経験がありませんから最初は出来ないということになったのですが、UNHCRからは再三の依頼があり、わざわざ東京のBAJ事務所にまで来られました。その熱意にもうたれて、フィージビリティ・スタディーというこ



ミャンマー全図(「アジアに架ける橋」より)

とで現地に新石ともう一人が行ってみましょうということになり、ミャンマーでの活動が 始まったわけです。

UNHCRが現地で困っていたのは、車両が故障しても修理できる施設がないということで、当初は車両の保守管理をBAJに、ということでした。通常は購入先の日本の車両メーカーが入ってメンテナンスをやればいいということですが、現地に行って分かったことは、現場はそんなに生易しい所ではないということです。ものを運ぶと言っても、道路がきちんとできているわけではありませんから、まずのは採算が合いませんから、現実的ではありません。つまりNGOのような組織でないとやれないということです。ですから、橋梁建設も大型機械などは入っておらず、全部人海戦



人海戦術による橋梁建設

術で進めています。

ーー ミャンマーで活動する日本の NGO はいくつかありますが、技術系・・土木建築がメインという団体は珍しいのではないでしょうか。

現在のBAJのローカルスタッフはミャンマー全体で150人以上いて、その半数以上が技術系の人です。彼らは橋を造ったり井戸を掘ったりというスキルを持っている人たちなので、マウンドーで大型の建設を実施できる団体としてはBAJしかないんですね。

今年の2月にミャンマーの難民がタイ側に 逃げましたが、タイ政府から追い返されたと いう事件があり新聞で大きく報道されました。 この事件を重くみた UNHCR は、5月に弁務 官(代表)が北ラカイン州を視察し、あらた めて支援の必要性が高い地域であるというこ とを認識したわけです。天然痘も毎年発生し ていますし、犯罪も増えている。UNHCR は、 この地域に対するさらなる支援が必要という ことになり、2009年は事業が拡大しています。 BAJ は現在この地域で、橋の建設などのイン フラ整備をやっています。

また JICA からもぜひ BAJ、UNHCR と組んで、ラカイン州におけるなんらかの支援事業



裁縫教室に集まった女性達

を実施したいという話があり、事業計画を進めているところです。

ミャンマーの場合、そういう意味では特殊なところです。私がミャンマーに行くと、必ず日本大使とお会いして、情勢について情報交換をするのですが、ベトナムなどではそんなことはありません。ことミャンマーに関しては、かなり JICA や外務省と緊密に連携をとりながら事業を行っているというのが実態です。

----- 住民のニーズと言う点ではどうですか。

今回、新政権が行った仕分け事業では、造りっぱなしの箱物はダメ、といった話が出ていますが、ミャンマーのラカイン州に関してはとにかく箱物でもなんでもあらゆるものが足りませんから、やればすぐ成果が出てくる。学校一つ建てればそこに先生が集まり生徒が集まるということで、みるみる地域が変わっていくんです。

ただ、歴代そこに赴任しているBAJスタッフの思いとしては、箱物だけではなく、社会開発のようなことも含めて総合的な地域開発をやってみたいという思いがあります。学校を建て、橋を造り、地域との信頼関係や行政機関との信頼関係が出来、そして村に入って

貧困者に対する識字や保健衛生、裁縫などの 教育を、ここ2~3年で出来るようになりま した。

ーー ミャンマーという国での活動の難し さはいかがでしょう。

何をするにも行政機関に相談しないと動けません。また最初の頃はどこに行くにも監視する役人といっしょでしたし、電話やFAXも盗聴されていたと思いますが、4~5年でそういうことはなくなりました。今は逆に政府のほうから、中央部で井戸掘削が進んでいないのでBAJにお願いしたいといったように、徐々に信頼されていっていることを実感しています。

年1回のシニアスタッフを対象にしたミーティングで、BAJの強みと弱みなど意見を出してもらった時に、良い点として一番最初に出てきたのは、BAJは政治色がないということでした。それは自分たちが働く場として必要なことで、ありがたいことだと彼らの方では評価してくれているわけですね。日本人には分かりにくい部分だと思いますが、そういう立場もあるんだということで、私たちはそういった状況下にある人たちのところに入っ



車両整備をする BAJ スタッフ

ていき、その人たちと一緒になって考えながら、あるいは将来BAJがなくなった時も、彼らが地域のリーダーになって、地域の開発を進めていってくれる。そんな人材を育てることが私たちの一番大きな役割かなと思っています。

――― ミャンマー人の国民性についてはど のように感じられていますか。

本当にみな穏やかな人たちです。そして何よりも信心深い。私などは、どうしてみんなこんなに大人しいのだろう、なぜ怒らないのだろうと思うのですが、それは敬虔な仏教徒であるということが背景にあると思います。

個々の人々は考え方も我々とそう変わらず、 政権に対してこれでいいと思っている人はい ないと思います。そうした人々が大変な状況 の中でも、何か希望を持ってやっているのは、 仏教という存在なしには考えられません。

そういう状況だからこそ、BAJ の活動が持つ意味は大きいということですね。

NGO の活動で第一の被益者は、NGO が雇用した人たちです。BAJ では、とくに地方では学歴が低い人でも熱意があれば雇って、英語やパソコンの勉強をしてもらい、あるいは

技術訓練を受けてもらい、育てることを しています。今ではBAJで学んだことを 活かして修理屋さんを開いる人も何人か 出てきています。

BAJの技術訓練学校には溶接、電気、エンジン修理という3つのコースがありますが、ラカイン州には他にそうした学校はありませんから、みんな熱心に勉強をします。地面に水がしみ込むようによく伸びていきます。そして成績の優秀な人は、BAJのスタッフとして雇用します



井戸水を喜ぶ村人たち

から目標もあって本当に一生懸命やっています。そういう人たちが経験を積んで、地域で 活躍していくという構造をマウンドーではつ くってきたんです。

ムスリムの未亡人などの最貧困層に対しては、お裁縫やお菓子作りなどちょっとした技術を教えることでなんとか生活につなげていけるようにしています。また、裁縫を訓練する場所にミシンが何十台かあるのですが、ここで技術を身に付けた卒業生が毎日10人くらい、近所から受けた注文の品を作り、それを収入にするような活動を行っています。

日本人が短期間で教えて帰るというのではなくて、じっくりと基礎から教えてインストラクターとしてやっていける人を育てて、さらにその人たちが地域で活躍できる状況を作るというのがBAJの特徴です。来たばかりの頃は、ムスリムの村に入って活動することは難しく、得体のしれない団体として扱われました。モラビーという宗教指導者の長老の「BAJの訓練には行くな」という一言で、次の日から誰も訓練に来なくなった(笑)、というエピソードもありました。それが今では村の長老から自分の家を使って構わないとい

う申し出があったりと、確実に変化してきて います。

ミャンマー人による ミャンマーへの支援を

BAJ の今後の展開はいかがでしょう。

昨年の5月にナルギスというサイクロンが南のデルタ地帯に襲来し、数百万人が被災して7万人の人が亡くなりました。ローカルスタッフの強い希望もあり、BAJでは緊急救援を行いました。物資が集まらなかった当初はローカルスタッフ全員がミャンマー各地からデルタ地域に集まり、みなで救援物資を配りました。そして他のNGOが入ってきて物資が潤沢に回り始めてからは、水をかぶって動かなくなってしまったトラクターのエンジン修理と学校の再建、修復というBAJならではの支援を展開し、学校については今までに50~60校を再建・修復したのではないでしょうか。

今回のデルタ地帯ほどではないにしても、ミャンマーは毎年サイクロンによる被害を受けているため、デルタ地帯では小学校の先生たちと一緒に防災教育を進めています。サイクロンの被害を毎年受けているラカイン州でも、防災教育を受けたいという機運が高まっており、今後 BAJ ではこの分野の教育活動にも力を入れていきたいと考えています。

ローカルスタッフでリーダー的な人がいて、 彼は、若者が学べる場所がないので、自ら若 者を集めて NGO のような活動を始めていま す。小規模ですが、英語の勉強やパソコンな どの勉強会を始めています。

また、マウンドーでも、インストラクター

として育った女性たちが、物乞いをしながらかろうじて生きている人たちを見つけてきて、髪を洗ってあげたり食事を作ってあげたり、その人たちのケアを自分たちで始めたんですね。今年の初め、彼女たちを日本に呼んで、日本のケアを見てもらったのですが、いろいろなヒントを得たようで、彼女たちからもっとボランティアを募って活動していきたいという希望が出て来ています。

そういった人材が出てきたということ自体、私たちとしてはミャンマーで活動をしてきて良かったと思います。こうした活動について資金も確保して、支援していきたいと考えています。

「活動を通じてスタッフの意識改革が行われ、いずれはミャンマー人自らの力で事業を展開できるようになればということですね。

5年前の現地スタッフミーティングで、今までは日本の資金を投入するばかりだったけど、自分たちで何か資金を生み出すようなことを考えられないかという話をしたことがあります。その時はシーンとしてしまって、意見は何も出ませんでした。ところが今年やったミーティングでは、シニアクラスの人たちが積極的で、こういう事業でミャンマー独自の資金を生み出したらどうか、それに対してBAJがどんな支援をできるのか考えるというところまできました。

ミャンマーでの活動は1995年から始まっていますが、スタッフも住民も行政機関も、少しずつですがみなの意識は変わってきています。日本政府の援助は、5月に行われるというミャンマーの総選挙の結果をみてから、という感じですが、BAJ はどんな状況になってもミャンマーでの活動を継続していきたいと思っています。

――― 最後に、「アジアに架ける橋」は特に どのような人に読んでもらいたいとお考えで すか。

これから NGO を目指している人、あるいは 携わっている人への応援メッセージのように なっているので、ぜひそうした方々に読んで いただきたいと思っています。

日本がこれからどういう形で国際貢献をしていくのか。自衛隊ではなく、民生の支援でいくのなら、もっと国際協力の現場に多くの人材がどんどん入っていけるような形をつくっていかなければいけない。それが新石の思いです。

―― BAJ のご活躍、ご発展をお祈りするとともに、日本の国際協力の現場が新石氏の理想に近づいていけるよう、私たちも見守っていきたいと思います。ありがとうございました。



新石正弘(あらいしまさひろ) 1945 年島根県松江市出身、1968 年東京大学工学部機械工学科卒業、1971 年東京大学工学系大学院修了。日本IBM、アジア学生文化協会を経て、元ベトナム人留学生らがおこした貿易会社で貿易業務に従事、1991 年ベトナムとの貿易と編集・企画を行うアルスコーポレーションを設立、1993 年NGO インドシナ市民協力センターを設立、1994 年ブリッジ・エーシア・ジャバンに改称、2006 年悪性リンバ腫を発症し、治療を開始、2009 年 1 月 29 日永眠(享年 63 歳)

先輩こんにちは!



<プロフィール> 1982 年研修生として初来日。1984 年名城大学研究生、1986 年東京工業大学大学院生。1988 年帰国、旭硝子、三菱銀行、さくら銀行、縫製会社(以上全てインドネシア現地法人)を経て現在ジャカルタにてビジネスコンサルタント

―――日本へはいつ、どのような経緯で来られたのですか。

初めて日本に来たのは22歳の時でした。大学を出て就いた仕事の関係で、日本で研修を受ける機会に恵まれ、名古屋にある海外技術者研修センター(AOTS)で1982年12月から1984年の2月まで、およそ15か月間を過ごしました。

当時私は、先進国はもちろん、外国に来たのも初めてですから、見るもの全てが新鮮ですごいなあと思うことばかりでした。街はきれいで人々はとてもきっちりしていて歩くスピードも速い。私は車が好きなのですが、いい車、インドネシアでは見たことない車がた

くさん走っていて、そうした光景に胸が躍り ました。

AOTSでは日本語をはじめ日本の文化、経済、工業について様々な講義を受けました。その一環でマツダ自動車や新日本製鉄などの生産現場にも行きましたが、そこではすごいなあと感動しましたね。

そうした経験からもっと世界を学びたい、 日本を知りたいと思い、研修を終え帰国して すぐ、今度は名城大学の研究生(放電加工) として名古屋に戻ってきたんです。

---- 研修生時代とは違うご苦労などはありましたか。

1984年4月から1年間を研究生として過ご

すことになったわけですが、研修生の時とは 違い自費で来ましたから、正規生になるのな ら奨学金を探さなければならずそれが当初の 悩みでした。

この悩みが解決したのは、同じ年の8月頃で、大使館の方から奨学金があるから申し込まないかという電話をいただいたんです。以前お会いしたことのある大使館の工業部長さんが私のことを覚えていてくれて、声をかけてくれたんですね。その奨学金は、日本工営という企業の奨学金で、給付期間は2年間でした。

同じ頃、東京工業大学(東工大)の先生を紹介していただき、1年間研究生をやることを条件に、大学院は東工大でセラミックスの研究をすることになり、85年4月に上京しました。そして数か月のアパート暮らしを経て、アジア文化会館(ABK)で暮らすことになったんです。

一一日本での留学生活はいかがでしたか。

私は日本で学べることが嬉しくて仕方なかったのですが、やはり日本語は大きな壁でした。日常会話には困らなくなっても、講義の時は必ず事前準備をしなければなりませんから、日本人学生に比べるとずいぶん大変でした。しかし、先生方はみないい方で、親切にいろいろとサポートをしてくれました。マスターの学生は先生がオーケーであれば英語でもレポートを作れるので、その部分では助かりましたが、逆に言えば学部の留学生に比べると日本語力はあまり付かなかったということになります。

東工大に入った2年目からは旭硝子の奨学 金をいただいていたのですが、それだけでは 足りず、学費はアルバイトをしてまかないました。もともと AOTS の研修生として来日した経緯もあり、アルバイトは AOTS からいただける通訳の仕事が中心でした。車関係なら三菱、川崎重工などいろんな会社に行けますし、私は機械関係の勉強をしていましたから、通訳の仕事も楽しくできました。

また、ABK でも気を使ってもらい、当時 農業団体が受け入れていたインドネシアから の農業研修生の通訳をやらせてもらい、何度 も新潟や福井など日本の農村に出向きました。 日本中を観光しながら、お金ももらえて、と ても感謝しています。

卒業後はすぐインドネシアに戻られたんですね。

日本で就職することも考えたのですが、22歳から6年間、一人日本で生活をしてきて、病気の時も身の回りのことは全部自分でやってきましたから、もう疲れてしまったんです(笑)。帰って家族のもとで暮らしたかった。それで、就職は奨学金でお世話になった関係もあり、1988年4月、旭硝子(インドネシア)に就職しました。

------ その後、金融の世界に進まれたという ことですが。

そうです。旭硝子には2年くらい勤め、そのあとは三菱銀行に転職したんです。1989年頃ですが、インドネシアの銀行法案が変わり、海外の銀行でもインドネシアで銀行業が出来るようになり、日本のほとんどの銀行がインドネシアに進出してきました。

その時私と同様に日本で旭硝子の奨学生で 三菱銀行に就職した友達がいるのですが、彼 が家の仕事を手伝うことになり銀行を辞める ことになったんです。それで、自分の代わり にやってくれないかと彼から相談を受けて、 私は旭硝子を辞めて三菱銀行に転職すること にしました。

もちろんそれまではずっとエンジニアですから、銀行(コーポレートバンク)の仕事には抵抗がありました。ただ給料は2倍になりますし、せっかくの機会だから新しいことにチャレンジしてみようと思ったんです。

銀行では事業開発を担当したのですが、最初の頃は何もわからず大変でした。借入れ、貸付けの勉強からはじまり、クレジットアナリストの仕事もしました。

結局、三菱銀行には5年半くらいいたのですが、東京銀行との合併を機に辞めて、さくら銀行に移りました。お金を動かす、経済を読む銀行の仕事が楽しくなってきたんですね。ただ、その後1997年に経済暴落が起きてインドネシアは大変なことになりました。ルピアの価値が下がり、どの会社も返済ができなくなってしまったんです。私の仕事はマーケティングだったのですが、その時は逆に不良債権の取り立てをしなければなりませんでした。

あの仕事は精神的にも肉体的にも大変で、 病気になってしまうくらい辛かった(笑)。そ ういったことや、さくら銀行にも合併の話が 出たこともあり、辞めたんです。

その後は誘っていただいた日系の縫製会社に入りました。オーナーは尊敬できる人で、人を国籍や出身で差別をしない、どこの国の人でも仕事が出来る人にはやってもらうという考え方でした。だから私は本社採用ということで入れていただいたんです。結局はそこに6年くらいいましたが、職場はとてものん

びりした環境でしたから、初めにスタッフに 会った時、これは大変だなと思いましたね。 その後改善するように努力しましたが、私は 厳しすぎてスタッフに嫌われていたと思いま す (笑)。

―― これまで日本企業に勤めてみて、どのような感想をお持ちですか。

まず、日本企業の良い点ですが、様々なことにわたって細かいということです。何をするにもプロセスをきちんとしないといけない。例えばある問題を解決する時に、誰が、いつまでに、どのようにといったことを細かく決めて、スケジュールに沿って進めていきます。時間もきっちり守ります。これは素晴らしいところですね。

一方でこれは日本企業のポリシーだと思いますが、日本の会社のトップは日本人だということ。最近大企業では変わってきているようですが、まだまだそうした文化はあると思います。それが欧米企業と違うところですね。私はいくつかの日系企業を渡り歩いてきましたが、駐在員の若い日本人、本当に右も左もわからない若者が日本から派遣されてきて、僕らから学んでいくわけですが、ある程度経つと彼らの役職が自分たちより上に行ってしまう。これは日本企業では普通の人事かもしれませんが、仕事のできるローカルスタッフからすると面白くないですよね。その会社でモチベーションを保って仕事を続けていけるのかというのは疑問です。

ーーー アジアでは中国が台頭し、日本の経済 力は年々下がる一方です。こうした時代に日 本に留学する意味はあるでしょうか。

日本には学ぶべき点がたくさんあり、日本



留学が時代遅れ、などということはありません。ただし、単純に英語圏の国と比較した場合は言葉の問題は大きいと思います。特に漢字文化圏ではない国の留学生にとって漢字をゼロから覚えるのは大変なことです。もちろん漢字が出来るか出来ないかで日本の留学生活は大きく変わりますから、しっかり覚えた方がいいわけですが、そういった意味でお勧めなのは高校を出てすぐ日本に来ることですね。そして1~2年かけて日本語、漢字をみっちり勉強することです。

――― 今振り返ってみて、日本に留学して良かったですか?

他の国との比較はできませんが、良かった と思っています。まず日本留学生全般に言え るのはファイティングスピリットが他の国に 行った留学生と違うということ。人生は知識 だけではありません。やはり心の中に燃える ものがないと、何もできませんし生きていけ ません。日本語を克服したり厳しいアルバイ トを経験した中で、日本留学は精神面も強く してくれるのだと思います。

それから日本は先進国といいながら、まだまだアジアらしい部分がたくさん残っている国です。地域のお祭りや目上の人への接し方など日本固有の文化でありながら、どこか私たちにも共通する部分も多く、安心できます。

また、きちんと時間を守ることやグループで動くことの大切さなども日本で学べることです。実は今日、ある日本企業との会議があったのですが、そこには会長、社長、専務も出席していました。そして会議が終わったら、会長も社長も含め、そこにいたみんなで後片付をしたんです。インドネシアでは片付ける人は別であり、そういったことはありえません。欧米の会社でもそうでしょう。そうしたみなで責任をとるという考え方は日本独特の素晴らしい文化であり、それを学ぶ価値はありますね。

―― 後輩へのアドバイスをお願いします。

今の若い人に言いたいのは、勉強だけではなく、ネットワーク作りを大切にしなさいということです。留学生同士も大切ですが、やはり日本に来たのですから、できるだけたくさんの日本人と交流しネットワークを広げることです。それは仕事を始めてからはもちろん、必ずその後の人生に生きてきます。

ーーー 今日は貴重なお話をありがとうございました。これからも日本とインドネシアの掛け橋としてご活躍ください。



都心の我が家は家賃2万5千円

日本への興味と日本旅行

初めての日本旅行は就職して から2年ほど経った頃、一人で 東京、箱根をまわりました。

旅館ぐらいあるだろうと、泊まるところも決めずに出かけた箱根では、観光案内所のおばあちゃんが私を芦ノ湖そばの自分の民宿に案内してくれました。1泊しかしませんでしたが、とても親切なおばあちゃんで、それは私の中に良い日本の印象を作ってくれました。

それから印象的だったのは満 員電車です。インターネットで 東京の満員電車のことは知って いましたが、自分も日本の日常 生活を体験してみたくて、早起 きしてわざわざ通勤ラッシュの 電車に乗りました。本当にぎゅ うぎゅう詰めで、身動きがとれ ない。苦しかったけど、体験で きて感動しました(笑)。

東京は大好きな世界遺産や大 自然こそありませんが、電車や バスを利用して一人でいろいろ なところに行けるので、とても 便利な観光地だと思っています。

日本留学までの 10年

私は中学校を卒業して、5年制の電子工学専門学校に進学しましたが、当時から日本に行ってみたいと思っていました。それは日本の教育を受けた祖母や日本のテレビ番組などの影響か

ら日本文化にとても興味を持っていたからで、日本に留学して日本語や日本文化を学びたいと思っていました。

ただ、私の家は裕福な家庭ではなく、仕事を始めてからは家計への支援も必要でした。ですから、卒業後は兵役で2年間軍隊に行き、その後はエンジニアとして電子機器関係のメーカーに就職しました。

それから約10年間、いつか必ず日本に留学するという夢を持って仕事に励みました。日本留学への夢は、私の仕事を支えた大きな要素だったんです。就職して何年か経つと、同僚たちは車やマンションを購入したり、結婚をしたり、どんどん生

活を変化させていきました。その間私はずっと1万6000円のアパートに住み、遊びといえばハイキングに行くことくらいで、お金を貯めました。

そして、留学後の実家への支 援や日本での学費、生活費を計 算して、これなら行けると思 い、会社を辞めて日本に来たん です。私の会社は台湾では優良 企業で、日本や欧米の有名メー カーのモバイル端末を共同開発 したり、あの iPhone の生産も していましたから、引き止める 人も少なからずいました。それ にちょうど経済不況で円高が進 んだ時だったので、運が悪いと は思ったのですが、それまで日 本留学のために生きてきたよう なものなので、気持ちが変わる ことはありませんでした。

日本で学んでみて

ABK日本語コースのことは、インターネットで知ったのですが、とても評価している人もいれば、逆にそうではない書き込みもあります。ですから、最初は不安感もありましたが、クラスに参加してみてそれはすぐになくなりました。先生の授業はとてもわかりやすく、クラスの雰囲気もとても良かったからです。

今いる D クラスは学部進学 が目的のコースで、ほとんどの 学生は 20 歳前ですから、私と は10歳以上年齢差があります。 クラスメートはよくみんなでカ ラオケに行ったりするようです が、私は行きません。でも別に みんなと仲が悪いわけではあり ませんし、勉強は自分自身のこ とだと思っていますから、周り のことには影響されずに自分の 道を歩んでいる感じでしょうか (笑)。

ただ、今少し心配なのは、来 年専門学校に入学してからのこ と。日本の若い学生たちと接す るのは少し心配です(笑)。

本当は学歴も欲しいので大学に進みたいのですが、4年間という時間や学費を考えると難しいと諦めました。私の一番の目標は日本で就職することなので、これ以上時間をかけるのは不利になるだけでしょう。

ストレスとリラックスの両立

外国人の中には日本で仕事をすることは厳しく、ストレスが溜まると言う人もいますが、遊に日本にはそうした疲れを癒もるリラックス空間がたくさ自然の恵みも豊富ですし、それらを引き立たせる四季も素晴らしい。私は今まで日本のたくさいりラックスできる良いところでした。だから日本ではバランスがかと思うんです。今も毎日の勉強や

テストに忙しい毎日ですが、週 末には様々な場所に出かけて日 本の生活を楽しんでいます。

仮に日本生活で問題があるとすると、外食の費用が高いことと、交通費が高いことですね。野菜や肉は台湾と変わらないと思いますし、スーパーのタイムサービスなどを利用すれば、台湾より安く買えることもあります。また、デジタルカメラなど、私の好きなものを安く探すことが出来ますから、決して物価が高くて仕方がないと感じることはありません。

私には歳の離れた日本人の友人がいます。彼には日本の様々な所に連れて行ってもらい、また台湾にも一緒に行きました。趣味も同じで考え方も近く、日本の文化や言葉についてもいろいろと教えてもらいました。東京で一人暮らしをしていて寂しいと感じる時はありますが、友達とメール交換をすると気持ちもすっきりします。本当に、私にとって今一番大切な友達で、彼には感謝しています。

この友人との出会いを含め、 部屋探しやアルバイトなど、 ABKに来てから今まで、びっく りするほどうまく進んでいると 思います。専門学校に進学後は、 今までとは違う問題が待ってい るかもしれませんが、自分を見 失わず、目標達成のために前に 進んで行きたいと思います。

東京から手軽に行ける観光地 東京から手軽に行ける観光地

(写真) 陳 俊銘

No. 1 本栖湖 (山梨)

<交通>富士急行河口湖駅→富士急山梨バス 精進湖経由本栖湖・下部温泉郷行きで50分、 バス停: 本栖湖下車、徒歩8分/新宿駅西口 から高速バスがあり

富士五湖の一つで、水深が富士五湖 の中で最も深い湖です(138m)。 この本栖湖からの富士山の眺めはと ても美しく、千円札の裏側に印刷さ れている写真はこの本栖湖から富士 山を撮影したものだそうです。時間 とともに変わる富士山と本栖湖の美 しい姿を、1日中眺めていても飽き ないでしょう。



ラッキーなことに傘富士(雲が頂上にかぶさっている富士山) が撮れました!

No.2 日本古民家園 (川崎)

<場所>川崎市多摩区枡形 7-1-1 ☎ 044-922-2181 <交通>新宿駅から小田急線「向ヶ丘遊園」駅まで約30分、 「向ヶ丘遊園」駅南口から徒歩 13分 <入園料>一般500円 学生300円

> 日本の伝統的古民家が自然豊かな敷 地の中に数多く保存されています。 家の中では本物の囲炉裏が体験でき ますし、民家以外にも水車小屋や歌 舞伎舞台などが保存されて、イベン トも催されます。静かで自然豊かな な庭園内に建つ合掌造りの家屋を見 ていると、タイプスリップしたかの ような気持ちになります。園内には そば屋やお弁当を食べられるスペー スもあり、ピクニック気分で楽しめ ますし、何より週末でも来園者が少 ないので、のんびり過ごせるのが最 高です。



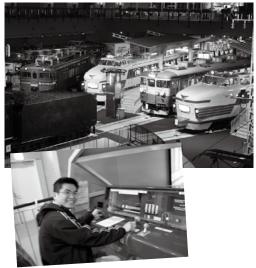
合掌造りの家屋

No. 3 鉄道博物館 (大宮)

- <場所>埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番
- ☎ 048-651-0088
- <交通>JR大宮駅よりニューシャトル「鉄道博物館駅」まで3分。同駅下車、徒歩1分
- <入館料>一般 1000 円 <開館時間> 10:00 ~ 18:00
- <休館日>火曜日、年末年始

日本の経済、文化の発展・移り変わりを鉄道を通して見ることができます。鉄道が好きな人はもちろんですが、館内はとても広く、様々な展示物があり、誰でも楽しめます。特に山手線や新幹線など様々な鉄道の運転が体験できる「運転シュミレータ」は本当に面白くて、何度も挑戦したくなるはずです。





No. 4 千鳥ケ淵 (千代田区)

<交通>(東京メトロ・都営地下鉄九段下駅2番出口から徒歩10分東京メトロ半蔵門駅5番出口から徒歩10分

桜を鑑賞するのならここがお勧めです。皇居という 日本の伝統的な建築物と高層ビル、そして満開の桜、 伝統と最先端の両方を同時に堪能できる場所です。

No.5 金時山と旧街道 (箱根)

<交通>(金時山) 新宿駅から小田急小田原線特急ロマンスカー 1 時間 25 分、箱根湯本駅で箱根登山バスに乗り換え 27 分、仙石バス停下車/新宿駅西口から高速バスあり (旧街道) 箱根関所:小田原駅より箱根街行バス 55 分

箱根のハイキングコースです。ともに日本の歴史を感じながら季節の散策を楽しめます。金時山は有名な昔話「金太郎」の舞台となった山で、頂上からは富士山や芦ノ湖を眺められます。標高は1200メートルと低いので、登山に慣れない人もピクニック気分で登れます。箱根旧街道は元箱根から箱根湯本まで、昔の人が江戸に向かった道を歩きます(逆も可ですが登りなので疲れます)。昔の大名は篭に乗って上京したそうですが、こんな斜面を、篭を担ぐ人はどうやって歩いたのだろう、そんなことを考えながらハイキングを楽しめます。



18

て記念撮影 (まさかり)を持っ

旧街道: 出発はやはり江 戸時代を再現した関所で す。資料館もあるので見 学もできます

写真家・鎌澤久也の

メコンのほとりで・・

十六、シャングリラ

世間をはじめて訪れたのは一九九三 をおりヒツジやヤクが放牧され、三角 きおりヒツジやヤクが放牧され、三角 きおりヒツジやヤクが放牧され、三角 地域は昔、カム地方と呼ばれたチベッ ・族の住む地で、その中心の街、中旬 にぼくは向かっているのである。

中年をにしばてまれたのに一ナナ三年のことだった。その後何度か訪れているが、訪れるごとに街が変わっている。実はこの地は、小説家ジェームス・ヒルトンの著書『失われた地平線』に出てくる。シャングリラ (桃源郷)』で出てくる。シャングリラ (桃源郷)』で出てくる。シャングリラ (桃源郷)』ではないかと言われており、それをもとはないかと言われており、それをもとはないかと言われており、それをもとはないかと言われており、それをもとさいかと言われており、それをもとさいるのである。

はないか。そして年に一度、チベット り歩けそうな小さな街だったが、常設の がみなぎっている。驚いたのは素泊まり べみなぎっている。驚いたのは素泊まり べかなぎっている。驚いたのに、バス・ト ひけの宿しかなかったのに、バス・ト ひがけの宿しかなかったのに、バス・ト ひがけの宿しかなかったのに、がス・ト ひがはないか。そして年に一度、チベット りないがいがいる。

た。三日間開催される祭りは、街の郊外、今回この地を訪れたのは、そのチベット族の祭典、競馬祭りを見るためだっになった。

五鳳山の麓で火蓋が切って落とされた。



り、続いて踊りが披露された。原色をです。 が揃ったところで開会の挨拶があ 全員が揃ったところで開会の挨拶があ を員が揃ったところで開会の挨拶があ

踊りが終わると数人のチベット族こ地域によって趣が違う。 として踊る。同じチベット族でも住む ふんだんに使用した民族衣装で、嬉々

間りが終わると数人のチベット族に 馬の背に立ったり逆立ちしたり、走る 馬の背に立ったり逆立ちしたり、走る 馬から地面に置いた銃を拾い上げ馬上 で構えるなど、いろいろなことが繰り で構えるなど、いろいろなことが繰り で構えるなど、いろいろなことが縁り では馬に二、三度乗ったことがある ぼくは馬に二、三度乗ったことがある ぼくは馬に二、三度乗ったことがある では、その都度拍手が湧き起こる。 ほくは馬に二、三度乗ったことがある でくは馬に二、三度乗ったことがある でり、突然走り出すので必死ですがり が、あらぬ方向に行ったり、立ち止まっ がいるしかなかった。さすがに遊 牧を主とするチベット族、馬の扱いは 慣れたものだ。

昼食をはさんでメインの競馬が始まった。四頭立てで千メートル、二千メートルを競う。初日メートル、三千メートルを競う。初日は予選、二日目、三日目に決勝が行なわれる。競馬自体取り立てていうことけないが、束の間の祭りは夕方まで賑々しく続いたのだった。

楽しんでいた。 集まり、年に一度の祭典を思い思いに 上族が輪になって踊る。見物人も大勢 三千二百メートルの高地で大勢のチベッ (写真) 周りを 山々に囲まれ、標高

中国雲南省を中心にアジアを撮り続ける。近年はメコン川、長江など、川をテーマにそこに暮らす人々に焦点を当てている。「メコン街道」など写真展を多く開催。 著書に『雲南最深部への旅』(めこん)、『メコン街道』(水曜社)等



しょうがくきんじょうほう **奨学金情報**

のむらこくさいぶんかざいだんがいこくじんりゅうがくせいしょうがくせいど ■ 野村国際文化財団外国人留学生奨学制度

対象: ①指定大学の修士・博士課程に在籍し になるたかがく しゅうがく もくてき りゅうがくせい 人文科学、社会科学の修学を目的とする留学生 ②国費および月額5万円(年間60万円)を超 える併給不可 ③応募時の年齢35歳まで

していたいがく とうきょうたいがく ひとつぼしたいがく きょうとたいがく 指定大学:東京大学・一橋大学・京都大学・

おおさかだいがく けいおうぎじゅくだいがく ゎせだだいがく 大阪大学・慶応義塾大学・早稲田大学

まゅうふきんがく げつがく まんえん **給付金額**:月額 15 万円

きゅうふきかん ねんかん **給付期間**: 2年間 しんきさいよう めいてい

いんきさいよう 新規採用:10 名程度

環じゅうしめき **募集締切り**:2009 年 1 月 25 日(月)

1-9-1 (財)野村国際文化財団

2 03-3271-2330

URL: http://www.nomuraholdings.com/jp/ bunka-zaidan/scholar/index.html

■ 岡本国際奨学交流財団

対象: 2010年4月1日時点で ①千葉県内 の大学に存籍、または千葉県内存住で県外の たがく かま しひりょうがくせい がくぶ ねんせい だい 大学に通う私費留学生 ②学部4年生か大 がいなせい しんがかくてい ぽぁぃ まらぼじけんきゅうせいか 学院生(進学確定の場合、応募時研究生可)

たいうふきんがく げつがく まんえん **給付金額:**月額8万円

給付期間: 2010 年 4 炉から 2011 年 3 月まで

の 12 か月間

まいようにんずう 採用人数:20名以内

募集期間:2009年1月5日(火)~1月29

日(金)(必着)

19番11号 ☎043-248-8808

 $e\hbox{-mail:} osf\hbox{-midori} 1911@coda.ocn.ne.jp$

H P: http://www.osf-family.com/

E-mail osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp

イベント情報

だい 18回 留学生冬のスポーツ大会

ながのけん 長野県のスキー指導員の協力を得てスキー・スノーボードスクールを開設します。

かた ちゅうきゅうしゃていど かた しんせつていねい しどう おこな 初めてスキーやスノーボードをやる方から中級者程度の方まで親切丁寧な指導を行います。

にほんじん がくせい じもと せいねん さんか おお たの こくさいこうりゅう ふか 日本人の学生や地元の青年の参加も多く、楽しい国際交流が深められます。

まかんちゅう こうりゅうかい こくさいこうりゅう 期間中、Conversation 交流会や国際交流パーティーも予定していますので是非ご参加ください。

- ●実施日:2010年2月17日(水)~2010年2月20日(土) 3泊4日
- ●参加費: 28,500 円 <食事代8食分、スクール代、リフト代、交流パーティー費、交通費含む(レンタル料金別)>
- ●宿泊施設:長野県須坂青年の家(長野県須坂市大字仁礼町峰の原 3153-784)
- ●スキー・スノーボードスクール:初心者には親切指導のスキー・スノーボードスクール
- ●参加申し込み:11 月 18 日より参加申し込み受付開始(募集人員 90 人・先着順)
- ●実施団体:NPO法人 留学生スポーツ交流協会

とうきょうとちゅうおうくにほんばしはまちょう 東京都中央区日本橋浜町 2-60-2 パークサイド日本橋 204 🕱 03-3663-5707

お知らせ

香港-日本 ワーキングホリデーが始まります

2010 年 1 月 1 日より香港と日本との間でワーキングホリデー制度が始まります。
この制度は、18 歳以上 30 歳以下を対象に、滞在 1 年間を限度に主として休暇を過ごすことを目的とする者 (表)な方それぞれ年間 250 人) に、別たうたいでは、おきないなからない。 このもの (そうぼう) というない (大きない) ないがらない (大きない) ないがら

ਵੇਲਾਬੁਨੈਟਨੈਟਾਬੁਨੈਟਟਵੈਰੇਸ਼ ਫ਼ਰਾਹਰਾਨ 在香港日本国総領事館 http://www.hk.emb-japan.go.jp/jp/working_holiday.html

MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

2009年9月

特別会員

(5 🗆)

(株) スリーエーネットワーク

来山 文泰 文京

千代田区 文京区

賛助会員

 平峯克
 川崎市

 近藤 壮一/みつ子
 清瀬市

 (株)日立製作所人材戦略室 採用

 グループ
 千代田区

正会員

 (1口)

 佐藤 玲
 文京区

 豊島 由久
 所沢市

 飯沼 英郎
 鎌倉市

堀内 智代子

国分寺市

ご寄付

 栗原 静子
 気仙沼市

 中野 正明
 国立市

 小木曽 建
 世田谷区

今月もみなさまのご協力に感謝申し上げます。

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純 民間運営の公益法人ですので、財源に限り があり、皆様方からお送りいただく会費、 寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財 源となっています。何卒ご理解、ご協力を お願い致します。

協会のあらまし

名 称: 財団法人アジア学生文化協会 ASTAN STUDENTS CULTURAL ASSOSIATION (ASCA)

所在地:東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者:理事長 小木曽 友

設 立:1957年(昭和32年)9月18日 故穂積五一氏創設

目 的:日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舎の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営(進学希望者向 けの日本語を中心とする教育)
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー、タイ語検定試験の開
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社) 日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の 会との連携・協力

◇会費 (年額) ◇

正会員 1口 1万円 賛助会員 1口 5万円 特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「月刊アジアの友」が無料配布 されます。また、広報誌購入だけを希望される 方には、購読料年間3千円(学生2千円)でお 送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談 ください。 日本留学生活に必要な最新のニュースを 毎月届けます!

ABK留学生メールニュース

ビザ手続き関連情報 医療・保険情報

就職アルバイト情報 イベント情報

各種試験情報

奨学金情報

外国人相談情報

他

登録はWEBから

http://www.jpss.jp

月刊 アジアの友 2009年11月号

2009年11月10日発行(通用第479号)

年間購読(送料共)3,000円(学生2,000円) 1部 300円(税込)

発 行 人 小 木 曽 友

集 月刊アジアの友編集部

発 行 所 財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2 - 12 - 13 (■113-8642)

電話番号 : 03 - 3946 - 7565/4121 ファクシミリ: 03 - 3946 - 7599

振替口座: 00150 - 0 - 56754 E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ: (http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: http://www.abk.or.jp/

「月刊アジアの友」の購読会員(年3,000円・学生2,000)にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

部屋探しは母国語で!

多言語賃貸住宅情報



CLive in Japan

http://www.live-ipn.com

外国人が母国語(英語、中国語、韓国語、ロシア語)で、検索機能を利 用して部屋探しができる外国人向けとしては日本初となる本格的なサイ トです!

